

取組名称：学生の学習成果、並びに、教員の教育効果の検証を行うためのeポートフォリオ作成に向けた基礎的枠組みの構築

学部等：国際文化学部

● 取組の内容・ポイント

- ・学生が利用するラーニングポートフォリオとチューター教員の学修指導報告を一つにしたeポートフォリオの基礎的枠組みの作成
- ・名称は、「Progress File: プログレスファイル」 通称:「Proファイル」(「成長、前進、発達」の意味と、個々の学生が将来目指す領域で「プロフェッショナル」を目指すという意味、さらには「プロフィール」という意味の3つを込める。)
- ・学生が入力する「履修モデルシート」「キャリア形成シート」「自己評価シート」、チューター教員が入力する「学修指導記録」からなる。
- ・国際文化学部のLMS「Webかるちゃー」と同じく、国際文化学部ホームページのトップからアクセスして利用。
- ・学生が毎学期ごとに目標を定め(Plan)、授業を履修し(Do)、成績やパフォーマンスを振り返り(Check)、チューター教員の学修指導をふまえて学生自らが次の目標を決める(Action)ため、成長の記録用ファイルを4年間通じて使えるようにする。

● 取組の成果

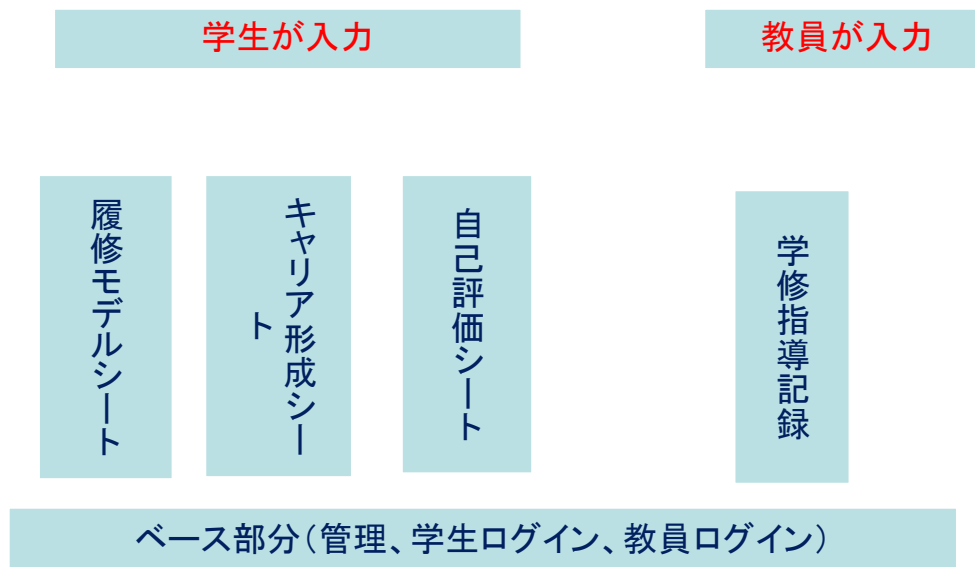
- ・他大学の先進的な取組、特に文科省GPのeポートフォリオ作成の成果に関する情報の入手。
- ・これまで紙ベースで行ってきた自己評価を確実に行わせることができ、学生がPDCAサイクルを回せるようになる。
- ・学生が入力した3つのシートをふまえてチューター教員による学修指導が行われ、学修指導記録を次のチューター教員に申し送ることができる。
- ・学生の4年間の成長記録の蓄積をもとにして、学部学科の教育成果や教育方法等の振り返りデータとすることができる。

● 今後の発展性

- ・今年度は、eポートフォリオの基礎的枠組み部分を構築した。これは、どちらかといえば、他大学のいうところの「学生カルテ」に相当する。今後は、これに他大学での取り組みを加え、学生の学習記録が蓄積できるeポートフォリオに発展させる必要がある。
- ・そのためには、次期中期計画(No. 19)により作成されるAP・CP・DPやカリキュラムの体系化、学生が身につける力と各科目の関係を示したカリキュラムマップ、各科目の評価指標と全体の関係づくりなどをふまえたeポートフォリオを作成する必要がある。
- ・「キャリア育成シート」については、次期中期計画で掲げた全学生のボランティア活動や国際交流活動、地域貢献活動等の把握に役立つとともに、就職のエントリーシート作成時に参考とするキャリアポートフォリオにも発展させることが可能である。

取組名称：学生の学習成果、並びに、教員の教育効果の検証を行うためのeポートフォリオ作成に向けた基礎的枠組みの構築
学部等：国際文化学部

● eポートフォリオの基礎的枠組み 「Progress ファイル：通称 Proファイル」の構造



取組名称：学生の学習成果、並びに、教員の教育効果の検証を行うためのeポートフォリオ作成に向けた基礎的枠組みの構築

学部等：国際文化学部

● 平成24年度の運用体制

- ・ 4月2日(月)～27日(金)：管理者による学生情報の入力
チューター教員に向けた使い方ガイドブック配布、オリエンテーション
- ・ 5月1日(火)～14日(月)：大学の新しいホームページへのアクセス
- ・ 5月15日(火)：新しい大学ホームページ上に開設されたeポートフォリオへのアクセス窓口の開設
学生に向けた入力ガイドブック配布、オリエンテーション
- ・ 6月末まで：学生がeポートフォリオ上に今までの学修履歴情報を入力
- ・ 7月末まで：管理者による入力情報の確認
- ・ 8月中旬から9月末：学生による前期の学修結果等の追加入力。
- ・ 10月：後期オリエンテーションで、学生向けにeポートフォリオを利用した学修指導のオリエンテーション
教員によるeポートフォリオを活用した学修指導(1回目)の開始
- ・ 11月～12月：教育効果の検証。eポートフォリオの改善。Eポートフォリオの発展形の検討
- ・ 1月～3月：eポートフォリオの改善。
- ・ 2月～3月：学生による後期の学修結果等の入力。
- ・ 平成25年4月：教員によるeポートフォリオを活用した学修指導(2回目)

● 平成25年度以降の学修指導

- ・ チューター教員によるeポートフォリオを用いた学修指導は年2回(前期開始時、後期開始時)
- ・ 1年生から4年生まで、学生が4年間で合計8回の学修指導を受けた学修指導記録が残ることとなる。
- ・ 学生は、従来の成績通知のほか、4年間に自らが立てた目標と振り返りの記録、身につけた力に対する到達度評価、活動履歴やキャリア形成履歴等の軌跡を記録として手元に残すことができる。